１５　新生児科フェロー研修要綱

指導責任者　河井　悟

当センター周産期部門（新生児科・産科）は、他の施設で対応が難しい先天性心疾患・小児外科疾患・脳神経外科疾患・腎泌尿器疾患を中心とした多くの問題を抱えた赤ちゃんの診療を目的に 2016 年 11 月にオープンしました。救急科・集中治療科・循環器科と協力して胎児診断・出生後診断された複合疾患を抱えた新生児を受け入れています。

多職種による協力のもと、ひとりひとりの患者様を大切にした、胎児期から小児期にかけて切れ目のない医療を展開することを目標とし、新生児科では出生前診断として胎児エコーを行い出生前からご家族に関わること、出生後は主治医として主体的に診断から治療方針の組み立てまで習得することを目標としています。また循環器科との協力のもと、心臓カテーテル検査・治療の技術も習得することが可能です。

新生児科医を目指す方で外科疾患の術後管理を学びたい方や先天性心疾患に対する苦手意識を克服したい方、小児循環器科医を目指す方で胎児・新生児期の診断・管理を学びたい方、それぞれに応じた目標を達成して次のステップに羽ばたけるよう、全力でサポートします。

1. 施設認定
   日本周産期・新生児医学会認定周産期専門医（新生児）認定施設（指定施設）
2. スタッフ
   (ア) 常勤医　　２名
   (イ) 非常勤医　　１名
3. 症例数
   (ア) 入院患者数　　約 80 人/年
   (イ) カテーテル検査・治療　　約 20 件/年
   (ウ) 分娩立ち会い例　　約 40 件/年
   (エ) 胎児心エコー　　約 100 件/年
   (オ) 手術症例　　約 60 件/年
4. 主な診療内容
   (ア) 先天性心疾患・小児外科疾患・脳神経外科疾患・腎泌尿器疾患など疾病新生児の術前・術後管理
   (イ) 心臓カテーテル検査・治療、造影 CT 検査、MRI 検査、消化管造影検査等、各種病態に応じて特殊検査・治療
   (ウ) 胎児診断およびプレネイタルビジット
   (エ) 院内出生症例の分娩立ち会い・新生児蘇生および退院後の 1 か月健診
   (オ) 新生児搬送

5. フェロープログラム

いずれのコースも、6の目標項目を目指してトレーニングを行う。なお希望者は循環器科とのローテーション研修も選択できる（期間は要相談）。

(ア) 1年コース

(イ) 2年コース

6. 研修の目標

(ア) 新生児管理の一般的知識を習得する

① 新生児期の呼吸・循環の適応過程を理解すること。

② 新生児期の輸液管理・栄養管理・呼吸管理などを理解し、実践できること。

③ 超音波検査装置を用いて、脳・心臓・腎臓の評価および診断ができること。

④ 採血・静脈路確保ができること。

⑤ 退院に向けた育児指導・家族支援について理解すること。

(イ) 疾病新生児の管理を習得する

① 外科的治療が必要な新生児について、関連する各科主治医と協力して診療にあたることができること。

② 外科的治療の術後管理について理解し、指導医とともに実践できること。

③ 必要に応じて関連する各科医師に相談し、治療方針について協議できること。

④ 多くの問題を抱えた患児や予後不良な患児について、多職種による協議に基づいた管理を実践できること。

(ウ) 先天性心疾患の新生児期管理を習得する

① 肺血流増加型心疾患、肺血流減少型心疾患、動脈管依存性心疾患などにおける血行動態を理解すること。

② 胎児循環から成人循環への移行について理解すること。

③ 基本的な心疾患に対し、身体所見、心電図、X線写真、および心エコーによる診断ができること。

④ 循環器系薬剤について薬理作用や特徴を理解し、使用できること。

⑤ カテーテル検査・治療、造影 CT 検査等について理解すること。

(エ) プレネイタルビジットを経験する

① 産科と協力し胎児エコーによる出生前診断ができること。

② 出生前診断の結果に基づき、出生後の方針について関連科・関連部署との協議ができること。

③ 出生後の予後が不良であることが予想される場合でも、家族の心情に配慮した説明ができること。

(オ) 分娩立ち会い・新生児蘇生・新生児搬送を経験する

① 院内出生症例について、分娩に立ち会い、適切な新生児蘇生ができること。

② 新生児蘇生法（NCPR）を習得すること。また NCPR 専門コース（A コース）を受講し修了認定を受けることが望ましい。

③ 救急科と協力し、他院出生の新生児搬送や、当院で治療を終えた患児の back transfer に参加すること。

(カ) プレゼンテーション

症例あるいは疾患群について検討および評価を行い、その結果をまとめて症例検討会や学会で発表できること。

また、それらを日本語あるいは英語で論文にまとめることも目指す。